

各地区業況アンケート結果（2021年6月調査分）

（2021年6月25日）

全国鉄鋼販売業連合会

日頃より当会へのご協力厚く御礼申し上げます。さて、6月24日締切で、当会役員141名に対しこのアンケートを行ったところ77名の回答があり（回答率54.6%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。DI = (A×2+B×1-D×1-E×2) ÷ 総回答数×100、(数は回答実数)

1. 前年同月比増が5割強

問1】貴社の5月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	30	9	15	13	8	75	74
比率	40%	12%	20%	17%	11%	DI+53	DI-3
売上金額/前年同月比	31	11	18	10	6	76	75
比率	41%	14%	24%	13%	8%	DI+67	DI+1

2. 収益回復傾向、黒字57%

問2】貴社の5月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	22	21	20	10	3	76	75
比率	29%	28%	26%	13%	4%	DI+64	DI+63

3. 販売低調続く

問3】貴社の営業窓口から見て6月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向	1	10	36	6	4	57	-4	-46
民間建設向		10	33	14	4	61	-20	-44
自動車向		5	26	5	1	37	-5	-37
その他需要家向		15	36	10	1	62	-5	-26
仲間取引		10	38	14	4	66	-18	-52
計	1	50	169	91	20	283	-9	-41
比率	0%	18%	60%	17%	5%			

4. 今後の需要も期待薄

問4】貴社における向う7月から9月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横這い	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	1	19	46	4	4	74	73
比率	2%	26%	62%	5%	5%	DI+12	DI-8

5. 薄中板は品不足深刻、コラム、厚板も不足気味に
問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	品種別	A	B	C	D	E		6月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	DI
-38	-24	-25	-4	0	-7	-10	-7	3	-3	-15	0	-3	鉄筋用丸鋼		1	24	3	1	29	-14
-26	-35	-38	-17	-15	-16	-10	-11	0	-4	-11	8	4	構造用丸鋼		3	21	2		26	4
-23	-25	-23	-14	-9	-13	-15	-6	-3	-3	-6	0	0	平角鋼		1	30	1		32	0
-30	-20	-19	-4	-3	0	-3	20	12	21	3	-3	6	H形鋼	1	6	23	1		31	23
-38	-38	-41	-33	-29	-21	-20	-13	0	12	19	14	24	コラム	5	9	9			23	83
-24	-34	-29	-14	-12	-9	-15	-9	-6	-8	-5	-3	6	小形山形鋼		1	29	3		33	-6
-33	-30	-26	-10	-12	-12	-14	-9	-6	-11	-11	-6	-3	中形山形鋼		1	28	2	1	32	-9
-39	-40	-27	-18	-12	-13	-17	-13	-3	-11	-11	-6	3	溝形鋼		1	26	4	1	32	-16
-21	-30	-27	-27	-17	-23	-16	-11	7	-7	-6	0	17	軽量形鋼C形	2	8	17	1		28	39
-26	-21	-25	-25	-16	-26	-22	-11	5	-5	-5	0	14	軽量形鋼広巾	1	2	14	1		18	17
-65	-70	-57	-58	-41	-3	10	35	108	127	132	148	158	冷延薄板	20	7	2			29	162
-58	-71	-64	-54	-35	0	31	58	105	106	105	100	123	熱延薄板	15	14	4			33	133
-64	-62	-53	-57	-34	13	23	34	114	145	139	134	161	表面処理鋼板	20	9	1			30	163
-77	-78	-80	-67	-47	18	34	75	127	144	143	150	161	酸洗鋼板	22	8	1			31	168
-61	-71	-46	-49	-22	15	18	49	89	93	84	95	104	中板	16	20	6		1	43	116
-72	-60	-46	-52	-41	-8	-8	15	33	43	34	36	56	厚板	6	20	10	1	1	38	76
-25	-29	-29	-42	-40	-11	-18	-9	0	10	22	24	39	極厚板	3	7	7	1		18	67
-21	-33	-26	-24	-21	-10	0	0	6	19	26	13	45	縞板	3	8	18	1		30	43
-38	-45	-36	-33	-26	-20	-15	-9	8	6	6	15	29	中径角	2	12	17	1		32	47
-27	-21	-22	-23	-19	-23	-11	-3	-3	-6	0	12	19	ガス管黒	1	8	22			31	32
-27	-23	-29	-19	-18	-18	-16	-6	-5	0	3	6	20	構造用鋼管	1	7	23			31	29
-41	-41	-37	-31	-22	-8	-3	9	31	35	34	37	49	計	118	153	332	22	5	630	57

6. メーカー大幅値上げで流通は価格転嫁に苦慮

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交ぜて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	北海道の丸棒も急騰。値上げに得意先がついていけない。仕入高、販売安で収益が縮まって苦しい展開。
	B	酪農関連の牛舎等の物件はある程度出てきたが、その他の物は少ない。鋼材、木材などの高騰により建設コストが上がっているが、今後の景気に影響がないことを祈る。
	C	(形鋼) 全体的に需要減。荷動きが4月、5月と昨年比、激減した。その中で大幅値上げを説明しながら実行している。この環境は非常に苦しい展開である。
	D	品不足が深刻になってきた。物件の話は出てきたが、まだ先になる。
東北	A	鋼材価格高騰により価格が合わず大変である。
	B	需要は連休明けから大きく変更はないが、以前、板関係のタイト感が加速し、品薄状態。今後の値上げも加速する傾向で追い付かず厳しい。
	C	今は我慢の時、下期以降は土木、建築とも期待できそう。
	D	足元の物件の数が少なく、奪い合いが多くなってきた。

新潟	A	お客様への供給のため、高値の仕入も止む無しとしているが、品薄状態は続いている。続々と実行される値上げの説明をし、お願いをしているが、満額の価格転嫁は非常に困難。
	B	メーカーからの値上げが続いており、価格転嫁が品種によりバラつきがある。特に酸洗鋼板は値上げもあるが、品物が入ってこない状況なので注意していきたい。
	C	品種によって価格転嫁の遅れがある。見積有効期限や在庫成り行き等、きちんと見積りの際には明記するように徹底させている。
	D	地元建築物の少ない中、メーカー値上げが急激であり、相場がついていけない。関東の厚板特約店が土地を購入し、工場を建設するらしい。秋の物件が見えてきた。
	E	荷動きは取り扱い全品種で低調に推移。ただ、当社でもひも付きは比較的順調である。
	F	必要な値上げが進行中。お客様に値上げの背景を丁寧に説明していくことが重要。見積りも期限を切り、お客様に迷惑をかけない営業を徹底していく。
	G	自動車は半導体の影響から生産調整となり、納入ストップの日もある。住宅関係は木材の入手困難と価格高騰の影響から建築金物関係の荷動きが悪い。県内鉄骨案件は全体的に低調で推移しているもゼネコンやファブの決まった物件が少し出てきた。
神奈川	A	需要はそれ程、変化は感じられないが、メーカーの値上げ幅の大きさが今後も継続的に実施されているので、遅れをとらないよう転嫁していきたい。
	B	メーカーの矢継ぎ早の値上げで価格転嫁が進まず苦戦している。需要は業界濃淡があるものの徐々に回復傾向か。材料申込も計画通りにいかず、今後の操業に影響が出てきそうである。
	C	工作機械の引合い数、受注残は減少しており厳しい状況。また、公共建設、民間建設も受注残が減っている。3ヶ月先以上の引合いはあるので、それらを受注することを期待する。
東京	A	各鋼種の値上げにより、仕入額が増加し、資金面で苦慮している。先々の引合いも単価上昇の動向をみて安全な価格で提示すると決定しない。粗利確保の難しい状況が半年以上続いており厳しい。
	B	市中材の値上がりがすごい勢い。但し、秋以降、需給がある程度、均衡してきたら良い感じになるのではないかな。
	C	鉄筋の在庫売りは低位安定だが、価格ははいよいよ9万円台になる。
	D	(店売り関連) 新型コロナの影響が続いており、出荷量も増えず、前年比でみると横ばい。(需要家関連) 海外のインフラ投資により、建機メーカーも増産しており、前年比でみると増加。
	E	店売り部分での価格のスポットや仲間間での価格上げ幅と直需要家への上げ幅の差が大きく開いてしまっている。このままメーカー値上げが年度内に継続すると想定はしていないが、年内中はこのような状況が続くのではないかな。
	F	材料メーカーの値上げが昨年下半年からトータル50～60円と凄まじい発表が続いているが、当社の製品値上げはその40～50%程度。まだ、ここまでは得意先も値上げに応じてくれたが、これから20～30円は得意先からの最終ユーザーが認めてくれず、商売が立ち行かない事態になる可能性大。零細企業は廃業しかなくなってしまう様に思う。
	G	1月以来、半年にわたり鋼板の仕入難、価格も20日の帳破、月替わりの月2回の値上げ要求。客先への転嫁ままならず。
静岡	A	各業種、今ひとつ動意なく、繁忙なき、材料値上げ状況が続いている。某電炉メーカー6月販価の影響で形鋼類の値上げが急ピッチで進行。ユーザーの与信管理を徹底したい。

静岡	B	各大手鉄鋼メーカーの3月期集計がされたが、減収増益で大きなダメージもなし。リサイクル、再生云々で「鉄は国家なり」これにSDGsも追風になったのか。大型プロジェクト事業、国家強靱化計画から予算見直しをしてほしい。いまだに令和元年、2年の工事に供給するのはおかしい。順風満帆に見えるHグレード以上のファブだが、製品管理など世情を勘案するに脆弱になっていないか。大手流通も相場感に「生き馬の目を抜く」を今こそ貫ぬけの勢いあり。平成21年頃の一昔前の環境とは違いすぎる。電債を打診してくる取引先が増加。自振BILLがない弊社はとりあえずお断りしている。業種柄まで期間現金決済で良いのではないか。HC、CC及び二次製品の玉がないわけではないと思うが、単価を決めて供給不可とならない商いが必至。木材も供給難、木造住宅工務店の話では鉄骨造を断った矢先で八方塞がりとのこと。
石川	A	過去に例のない短期間での大幅な上げが続き転嫁が追い付かない。我々以上に顧客が価格転嫁で難航することが、創造されるので、店売り市場の規模が急激に縮小しないか大変心配である。
	B	小口需要、加工込み、即納が順調になってきた。周囲がコロナで参っている中で、モノ造り、建業、官公工事はまあまあであることは大変有難い。やはり「鉄は国家なり」である。より超積極的に公共工事をどんどん前倒しすべし。景気を引っ張る責任がある。ニューディール政策の現代版で国を活性化させる大きな義務と責任がある。もう一つ大事なものはワクチンの国産化を早く実現すること。
富山		価格暴騰が半年遅れで地方の上場企業から鉄工所までご理解され、今頃の前倒し発注に困っている。一方、東京本社で価格変動を認めぬユーザーが多い。(他社再見積りに先物留保等)オリンピック開催同様、間際になって慌てての反応。事情をよく理解しない人々と同じレベルも致し方ないのか。
大阪	A	H形鋼、一般形鋼ともメーカーの大幅値上げにより若干の仮需があったが、6月に入り、荷動きは落ち着いている。今後、需要は大きく変わらないが、メーカーの大幅値上げ玉が入荷してくるので、需要の如何にかかわらず、販売単価を採算ラインに押し上げていかなければならない。
	B	メーカー値上げペースが速すぎて、再販価格への転嫁が追い付かない。天井が見えない値上げに需要家への説明に苦慮している。ひも付きとの価格差に理不尽を感じる。
兵庫		年明けからの薄中板のタイト感が、厚板も同じ状況になってきた。申込量は減らされ、納期も遅くなり限られた母材を高く販売する方向にするべき。
岡山		どのメーカーも同じだろうが、当地区の自動車メーカーも生産が減り、協力会社が週休3日になったところもある。理解あるお客様は、鉄の値上りを新聞等で知っており、話がスムーズだが、物を切らさないようにと釘を刺される。ハイテンションボルト問題の再燃が心配。
香川		四国の鉄骨状況は日増しに減少しているように思える。大型物件も少ないが、在庫出荷は直結する。中小案件は特に厳しい状況。現状が続くと流通も苦しいがファブは与信も含めてもっと大変になると思う。
北九州		需要低迷のため、電炉の条鋼類はメーカー値上げが続いているものの発注量が少なく、倉の平均簿価の上り方も遅いため、販売価格が思うように上がらない。平均簿価を見るのではなく、今、買える価格から商売したいものだ。
福岡		中板の在庫不足は深刻で、数量制限せざるを得ない状況。厚板においても、メーカーは引受量を削減しており、慎重に受注対応しなければならない。需要の絶対量は少ないが、それ以上にメーカー引受けは減少しており、更にタイト感は増している。